

# 三瑞だより

令和5年度 12月号  
荒川区立第三瑞光小学校  
校長 水野 美津子  
発行 令和5年11月30日

## 学芸会を終えて

校長 水野美津子

朝、校門に立って挨拶をしていると、立ち止まって大きな声で「おはようございます」と丁寧に  
お辞儀をしてくれる子供がいます。また、「校長先生、昨日ね、〇〇大会でがんばりました。」と自  
分のことを話してくれる子供もいます。また、「〇〇でお世話になりました。」と通勤途中にお礼を  
言うてくださる保護者の方もいらっしゃいます。子供たちの元気な声や笑顔、保護者の方の温かい  
言葉に励まされて一日がスタートし、今日も頑張ろうという前向きな気持ちになります。

さて、11月18日に令和5年度学芸会を実施しました。体育館の面積の都合上、お子さんの学  
年の発表のみ各家庭3名という制限の中、保護者の皆様には、ご理解やボランティアとして参加し  
てくださった保護者の皆様を含め、ご協力に感謝申し上げます。

手前味噌になってしまいますが、私は、とてもよい学芸会だったと感じました。子供たちの演技  
や歌がうまくいったということもありますが、どの子も真剣に自分のもっている力を発揮しようと  
練習に取り組んでいる姿や友達と協力して自分たちの劇を作っていく姿が見られました。  
リハーサルの翌日、6年生の教室の前に担任たちからの言葉が掲示されていました。「自分たちの劇  
に満足できないと自分から動きやセリフの言い方を替えたり、大道具の動かし方を工夫したりする  
姿が見られて嬉しかった。現時点で満足せず、自分たちで動き出して成長していく君たちのもつ力  
がまた動き始めた瞬間を目にしている」と書いてありました。子供が考え、主体的に取り組んだか  
らこそ、見ている人を感動させる劇になったのだと思います。退場していく子供たちの顔を見るこ  
とができるのは、校長の特権ですが、みんなやりきったという満足感いっぱいの笑顔で退場してい  
きました。

先日の学校評議委員会で「コロナ禍の影響はまだまだ続いている。失われた3年間を取り戻すに  
は同じように3年間かかるだろう。」というお話がありました。特に5、6年生は、自分自身を思い  
きり表現できる低・中学年の時期を大きな声を出してはいけない、マスクで顔の表情が分からない  
など制限された中での生活でしたから、今回の学芸会で表現することの楽しさや素晴らしさを少し  
でも実感できた子がいたら、大成功の学芸会だったと思います。

保護者の方の感想から(子供たちにも教職員に向けても温かい感想ばかりでした。ありがとうございました。)

- ・話の内容は、今の時代に訴えかけるようなものでした。どれだけ時代が進んでも人として大切な心、思いやりは、いつも時代も変わることなく続いていくものだと思えて感じさせられました。
- ・皆で一つのことをやり遂げようとする一生懸命さが伝わり、成長を感じました。
- ・マスクもなく、皆の顔が見られたのも嬉しかったです。
- ・照明や場面転換など裏方まで全て自分たちの力で行い、全員で作品をつくりあげていく様子に感動しました。

## 12月 の目標

生活目標……友達と仲良くしよう

保健目標……うがい・手洗いをしっかりしよう

給食目標……仲良く楽しく食べよう

